

「大坂の史跡を訪ねて」

連載18回目

～西区周辺 その1～

オサタニ ヨシハル
長谷 吉治

▶ 今回から大阪市西区周辺をご紹介します。

1 土佐藩蔵屋敷跡 西区北堀江4丁目(土佐稲荷神社)

▶ 桜の名所として親しまれている土佐稲荷神社、隣接するマンション、及びこども文化センターなどこの周辺は、土佐藩の大坂蔵屋敷でした。
そのマンションに、かつて作家の司馬遼太郎氏が住んでおられました。
さて、土佐藩ですが、土佐国を領有していた長宗我部氏が、関が原の戦いで西軍に就き敗れたため、遠江国掛川から配置換えで山内一豊が入国します。
幕末までこの山内氏が、16代にわたり土佐藩を統治しました。
ところで、山内氏は、「ヤマウチ」なのでしょうか、「ヤマノウチ」なのでしょうか。
実は、本家は「ヤマウチ」。それと区別するため分家は「ヤマノウチ」といったそうです。
幕末四賢候のひとり、山内容堂を「ヤマウチヨウドウ」といったり「ヤマノウチヨウドウ」といったりしていますが、どちらが正しいのでしょうか。
藩主になる前、容堂は分家でしたので「ヤマノウチ」でした。しかし、容堂という名は藩主になってからの名ですから、「ヤマノウチヨウドウ」は誤りとなります。
幕末の土佐藩は、15代藩主山内豊信(のちの容堂)が人事の刷新を図り、吉田東洋を抜擢し、藩政の改革を行いました。一方、幕政では將軍継嗣問題に関し、一橋慶喜擁立に尽力しましたが、大老 井伊直弼により一橋派が退けられ、安政の大獄により、隠居謹慎の処分を受けます。慌ただしい政局の中で、吉田東洋が暗殺され、武市平太を中心とした「土佐勤王党」が勢力を得ます。
文久3年8月18日の政変後、情勢は変わり、山内容堂は勤王派を弾圧します。
しかし、再度情勢が変わり、土佐脱藩の坂本龍馬と参政 後藤象二郎との会談で意気投合し、龍馬率いる「亀山社中」は土佐海援隊となります。
龍馬が起草した「船中八策」が後藤により山内容堂に伝えられ、容堂はこれを藩論として建白書に認め、將軍徳川慶喜に提出しました。
それを受け入れて大政奉還が成されました。しかし、武力討幕を主張していた薩摩、長州は「王政復古の号令」というクーデターを起こし、徳川慶喜を実質政権の座から引きずりおろす事に成功します。
平和的解決を希望し、それに成功したかのように見えたのですが、結局土佐藩は、討幕軍に参加し、戊辰の役を迎えたのでした。

<土佐稲荷神社>

京都の土佐藩邸内にも稲荷神社がありましたが、大坂の土佐藩蔵屋敷邸内にも鎮守社として稲荷神社がありました。享保2年(1717)に設けられました。
明治になって蔵屋敷跡地は、岩崎弥太郎にその所有が移り、桜の木をたくさん植えた事により桜の名所となりました。
境内には、第8代藩主 山内豊敷(とよのぶ)寄進の石灯籠、三菱の2代目社長 岩崎彌之助寄進の青銅狛犬、更には嘉永4年(1851)に建立された其角の句碑、元首相 加藤高明寄進の高灯籠があります。
公園が隣接していますが、この公園は「土佐公園」といいます。

2 堺事件 土佐藩11烈士ゆかりの地 西区北堀江4丁目(土佐稲荷神社)

- ▶ 慶応4年(1868)2月15日、堺の警備にあっていた土佐藩守備隊が、無法を働くフランス兵13名を殺害するという事件が起こります。これを「堺事件」といいます。守備隊は、土佐藩蔵屋敷にて謹慎を命じられます。18日、フランス公使 レオン・ロッシュは次の要求を突きつけます。

1. 山内容堂がフランス軍艦ヴェニス号に謝罪に来ること
2. 殺害に加わった土佐藩士のうち20名を堺で処刑にすること
3. 13人の遺族に15万ドルを支払う事

土佐藩 山内容堂は謝罪後、隊長だった箕浦猪之吉以下70名の隊士から20名を「みくじ」によって人選するよう命じました。

実際に射撃した者 29名中、隊長、小頭の4名を除く25名より16名が「みくじ」によって人選され、その場所が、ここ土佐稲荷神社の神前でした。

その後、人選された20名は、堺の妙国寺に護送され、壮烈なる切腹をおこないます。

最初の切腹をした箕浦猪之吉は、腹を斬って内臓を自ら取り出し、ロッシュに「フランスのためでなく国のために死ぬのだ」と叫んだといわれています。

余りの壮絶な切腹に12人目で中断され、実際の切腹者は11名です。



11名は妙国寺の向かいにある宝珠院に葬られました。



土佐稲荷神社の古写真 神社に隣接する岩崎邸